



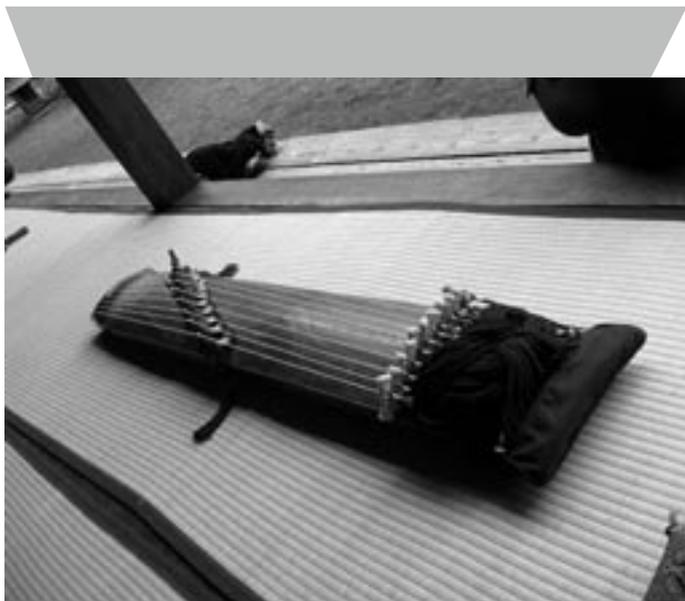
人ととなり、音となり、表現となり

舞行李
춤고리

の世界をお伺いしたので、今日は寿玉さんご自身の「音」のことをお伺いしたいのです。

寿玉 私「音」と言いますと？
—何か楽器を習っていらっしやうたと言うお話を以前にお伺いしたので。

寿玉 私が習ったことがあるメロディー楽器と言うのはカヤグムだけです。それも20代半ばになって始めました。
—それは、どのようなきっかけ



カヤグム (伽倻琴)
カヤグムは桐の木を細長い形態に加工し12本の弦を直に手で弾き演奏する弦楽器。朝鮮時代の風俗画によく出てくるように女性たちが好んで演奏する楽器でした。コムンゴが勇壮な音色を持っているのに対しカヤグムは繊細で肌にしみ込んでくるような清らかで柔らかな音色を持っている。

で？

寿玉 私が韓国に舞踊留学をするときに、崔淑姫先生から「踊りだけではなくて、楽器、カヤグムをおやりなさい」と奨められたのが直接のきっかけでした。ですが、それ以前から、私の心の中で、何か私たちの民族の象徴的な楽器だと言う思いはあったのです。

—それで韓国で先生から習われたのですか？
寿玉 韓国で約一年イ・セファン先生に習い、帰国してからチソンジャ先生に習いました。

—どのくらい習っていらっしやうたのですか？
寿玉 通算すると13年くらいになります。ですが、今ではまったく自分では演奏できません。ただ、その時に先生方から受けて、体で感じた音は今でも私の体の中に残っています。

—体で感じた音？
寿玉 先生とこう差し向かいでお稽古をしています。ご存知と思いますが、日本のお琴とは違ってカヤグムはひざの上に片側を乗せて演奏します。カヤグム

の下側に穴が開いていて、そこから音が響いてくるのですが、先生の奏でる音が、圧倒的な凄さで、私の体を満たすのです。その音の一つ一つが疑う余地のない真実として私の体に残ります。ノンヒョン(注1)が呼吸の中に溶け込んで行くすばらしさ。その感動した音やノンヒョンを出したくて、出したくて、出せたら、と一生懸命でした。

—それでは、かなり優秀なお弟子さんだったのでは？

寿玉 とんでもありません。子供のときから楽器に親しんでいた方々とは違い、私の中には絶対音階がなくて、調弦もままならず、手も思うように動かず、覚えられなくて、先生方にご苦労をおかけすることばかりでした。2〜3年経った頃、後からお稽古を始めた音楽をしていたお弟子さん達がすらすらと覚えていく様子に驚いたり、落胆を覚えたりしたこともありましたが、それでもひとつでも良い音が出たときの嬉しさが忘れられなくて、必死について行きました。本当にすばらしい時間でした。

た。

—カヤグムは寿玉さんにとって、どういうものだったのですか？

寿玉 韓国舞踊の基礎を教えてくださいました。呼吸やチャンダン(注2)、心の置き方、全てを教えてくださいました。ですから踊りの中にカヤグムの調べがチュムそのものになって生きていくように感じます。お会いした先生方一人一人の個性が、人となり、音となり、表現となって私の体を持って奏でているような。昔先生に言われてもわからなかった「音のこだわり」や「メロディーやリズム、呼吸の流れ」というものが、踊りの中で今、ほんの少し分かるようになってきたように思います。

—これからも踊りの中で「良い演奏」を奏でてください。

注1…ノンヒョン…指で弦を押さえたり戻したりして、音の高さを変えること。謡のように音に変化する。

注2…チャンダン…長短と書くリズムのこと。(西方恭子)

韓国の舞とソリ(唱)から考える 日本の伝統芸能



歌舞伎の錦絵

舞藝舎 芦野孝男

伎独特の花道、回り舞台、セリ、スッポンなどの舞台機構や、柝きの音による幕の開閉などのレクチャーを行いました。第2部は、歌舞伎の女形の拵かみえを化粧、衣裳、かつらの実演を通して、男性が女形

に変身する様子を披露しました。また、韓国のお客様を舞台上上げて、歌舞伎独自の化粧である「隈取り」を体験して頂き、喝采を浴びました。休憩の後、第3部は、1部、2部の知識を踏まえて、解かりやすく、軽妙な、お狂言から題材をとった松羽目歌舞伎舞踊劇「釣女」を上演し、会場は笑いと拍手に沸

き、無事、幕がおりました。2003年5月の公演は前回の歌舞伎入門公演から、一步踏み込んで、韓国の伝統芸能との交流も含めた公演として、『パンソリと歌舞伎を通してみた音の世界』の比較交流公演が実現しました。

第1部の「義太夫」と「パンソリ」の世界では、竹本朝重社中による女流義太夫の素浄瑠璃で『傾城阿波の鳴門』巡礼歌の段と『新版歌祭文』野崎村の幕切れのとこ

ろを哀調たつぷりに語り演じました。パンソリからは、中央大学の金星女先生が、『沈青歌』をワー

クシヨップ形式で解説を交えて、語り演じました。語り手である金星女先生が手に扇子を持って、身振りと多彩な声の使い分けで、伴奏の鼓手が打つ太鼓の合いの手や調子に合わせて、見事にその場を盛り上げていきました。

三味線と鳴物や付け打ちの音にのって演じました。

一般に伝統芸能は学校で取り上げられる機会も少なく「なじみがない、むずかしい、わからない」などの理由でとかく敬遠されがちでした。特に音楽教育は明治以降、また戦後はますます、クラシック音楽中心でお琴、三味線、お囃子などの邦楽は町のお稽古所やカルチャーセンターなどで、お師匠さんたちにより、愛好家の間で細々と受け継がれて行ったに過ぎません。一般の人には義太夫、清元、常磐津、長唄の違いや、この語る言葉もよくは、わかりません。子ども達の踊りも日本舞踊よりもパレエにその座を奪われつつあります。このような状況の中、その道にもっとも近い韓国の伝統芸能に接することで、日本の古典舞踊や音楽も、その原点を問い直されるきっかけになったのだと思います。

第2部 『五条橋』では絵本から飛び出してきたような、隈取りの弁慶と軽やかな牛若丸の様式化された立ち廻りを義太夫の語り

した。第2部 『五条橋』では絵本から飛び出してきたような、隈取りの弁慶と軽やかな牛若丸の様式化された立ち廻りを義太夫の語り

した。第2部 『五条橋』では絵本から飛び出してきたような、隈取りの弁慶と軽やかな牛若丸の様式化された立ち廻りを義太夫の語り



写真④五条橋

⑤韓国の学生に隈取の実演

2000年10月と2003年5月、私たち、伝統芸能企画制作『舞藝舎』は、日韓文化交流基金助成事業による、歌舞伎ワークショップ公演を、ソウルの中央大学校ア

ートセンターで行いました。2000年、韓国で日本の大衆文化が開放されつつある中、「日本文化の原型」である古典芸能、請があり、国立劇場歌舞伎研究所

とリわけ歌舞伎の本格的公演がなされたのは、1988年ソウルオリンピックの年に国レベルで開催された松竹大歌舞伎以来のこと

た独自文化である、和の伝統芸能を普及する目的で国内の青少年を対象に活動してきました。中央大学校文科大学の朴銓烈教授からも、韓日が一層理解を深めるためには、伝統に根ざした本物の文化を身近に感じることが大切

2000年10月の公演は「歌舞

伎ワークショップ公演 釣女」と題

版歌祭文』野崎村の幕切れのとこ

五方舞

野遊会

韓国では季候が良くなつてくると、野に出ます。これをヤユフエと言います。漢字で書くと「野遊会」です。日本の花見の

ように、特定の花を愛でるのでなく、気候の良い野や山に遠足に出るといったところです。

野遊会の元は怖らく「花煎(フアジョン)ノリ」であろうと思

います。「ノリ」とは「遊び」という意味です。



開聞岳 (薩摩富士)

チンダルレの花を餅米の粉で捏ねて丸くし、油で揚げたものを言います。

「花煎ノリ」というのは、陰暦の三月に酒や食べ物を持って、若者達や婦人達、少人数のものが景色や水の綺麗な所に出て遊ぶことで「花遊び」ともいいます。

季節が良くなれば外に出たくなるのは人の常ですが、韓国人は山歩きが好き人が多いと思います。以前は山に出掛けた

山がゴミ捨て場になってしましたが、最近山に食料の持ち込みを禁止している所が多いのと、ゴミを持って帰る人が増えてきたので、山が綺麗になっています。

また、歌舞音曲が好きな国民ですから、かつてはラジカセで音楽を大音量でかけて歌い騒ぐと言ったことが行われていました。山に出掛けると、あちこちで「クンチャカ、クンチャカ」とうるさい音楽に合わせてゴーゴーを踊っていました。最近ではさすがにこういう事はなくなりました。韓国の人が山歩きが好きなのは、怖らくは遊牧民のシャーマニズムに起源があると思います。遊牧民は基本的には太陽信仰です。彼らは日の出る方向や日が

出てくる所を神聖な所と考えました。

太陽が出てくる高い山は、神が宿る聖なる山となりました。そして山に登ったのは、少しでも神に近づきたかったからではないかと思えます。

新羅の始祖に朴氏と昔氏がいます。朴氏のパクというのは、明るくという意味から来ています。韓国語で明るい「パクタ」といいます。また昔氏は鵲(かささぎ)という漢字を略して昔と書いたとのこと。

遊牧民族では、鳥は地上の魂を天界に運んだり、案内したりする役割を果たします。

韓国の人は、始祖を神になぞらえたために、始祖の名前が朴氏や昔氏に成ったのだらうと思

います。 こういう思想や風習が日本に入って、山岳信仰や白山信仰を生んだのではないかと思います。白は遊牧民族では太陽の色です。農耕民族は太陽を金色で表しますが、遊牧民族は白で表します。韓国人が白衣を着ていたのは、自分達を太陽の子と考えていたからです。柳宗悦は、韓国人の白を哀しみの色と捉えましたが、それは大変な勘違いでした。白山の白は韓国語では「ペク」と発音しますが、それは明るい

トウナラサランライブ 李良枝さん追悼公演



主催 李良枝を顕彰する会
後援 富士吉田市・富士吉田市教育委員会

五月十五日、富士吉田市にある歴史民俗博物館内の御師住宅に於いて作家、李良枝さんの追悼舞踊公演が行われた。

江戸時代にタイムスリップしたかのような風格のある家は、若葉の茂る林の中に佇んでいた。主催者が驚くほどの客の入りで、襖を取り払った家は、熱気に満たされた。

趙寿玉は李良枝さんとはソウ

ルに留学していた当時の同級生だった。ずっと仲良しだっただけに、彼女の写真を見ただけで目に涙が浮かんだ。

趙寿玉は李良枝さんの写真に語りかけ、それから李明姫さん達の伴奏に乗って、舞った。

(李起昇)



掲示板

男達の手仕事展

韓国舞踊「丈ノ高イ草ガ」

趙寿玉が悠玄の空間を使って韓国伝統舞踊をもとに新しい世界を創ります

舞踊 趙寿玉

鳴物 盧慶順

言葉語り 椿座

美術 北坂伸子

会場 ギャラリー悠玄

5月26日(木) 7時開演

前売り 2000円

当日 2500円

お申込み・問合せ

アートプラネット

03(3477)0510
090(7200)4716(国井)



できるだけ遠くへ進みたい

井上愛彩

「ハナ、トゥル、セ、ネ」のかけ声が響く教室で、韓国語が分からず、「イチ、ニ、サン、シ」と一人つぶやきながらついていく。私の韓国舞踊デビュー当初は、こんな感じでした。

チュムパンの会の方々は、在日コリアンだったり、もともと韓国語を習っていたり、韓国に縁があつて舞踊を始めた方が多くおられますが、私と韓国とのつながりと言えば、本と映画、出身地である滋賀県の高校に在日の同級生がいたぐらいでした。舞踊を習うのも、今回が初め

てです。1年ほど前、周囲に「踊りを始める」と宣言。タップダンスは格好いいなあ、フラメンコも情熱的。ヨガ（踊りでないかもしれない）も落ち着きそう… と思いつつ、きっかけがないまま時間が過ぎていたところに「やりませんか」と声を掛けられたのです。

本人はなんの気なく誘ってくれたのだと思いますが、私の方ではこれは天啓だ！ と思いい、木曜教室の見学に行きました。ちよどブチエの練習をしていて、静かな動きがきれいで、通

うことに決めました。今年から毎回通い始め、ようやく足の基本の順序ができるようになったところです。

韓国舞踊を選んで良かった、いま思うのは、感情移入できるところです。何がどういいのかうまく説明はできませんが、たぶん西洋の踊りでは、ここまで感情が入らないだろうと思いません。「日舞でもよかつたんじゃないか」という質問をいただいたことがあります。日舞だと動きがゆつくりすぎるので、いま習っているぐらいの速さがちよどいいのです。

趙寿玉先生とオンニたちの動き、音楽に合わせて踊っている、ふと我を忘れ、波に乗っているような感じのする瞬間があつて、その気持ちよさも、こたえられません。

ほかにもあります。私は、通信社（新聞社に新聞記事を配信する会社です）の記者をしています。取材の時は言葉で尋ね、言葉で答えてもらい、記事にするのも言葉と、ひたすら言葉ばかり使うため、踊りで体を動かすと、頭と体のバランスが取れ

活動記録

「ハナトゥル」

◎2005年4月1日

山梨県南巨摩郡にあるギャラリ1軒にて、栄一根展示会が行われた。この席上で趙寿玉先生は、散調舞とサルプリ舞を舞われた。

サルプリ舞の始め先生は、栄一根先生が作られたワラの束を両手に高くかかげ、展示会の成功とギャラリ1軒の盛況を念じ、作品の合間をねり廻りながら格調高い舞を披露された。

富士山のふもと、千坪の敷地に約1000個のハンアリが整然と置かれた庭園の中にたたくむギャラリ1軒、都会では目にする事がない空間の中で見る先生の舞は、その中に流れる空気のように凛とした美しさと躍動感をただよわせ、展示会に参列した人々に大きな感銘を与えた。
(孫福順)

◎2005年4月22日

横浜市神奈川区民文化センター「かなつくホール」にて

これは横浜の地において、横浜在住の舞踊家達の手により韓国舞踊芸能を広く紹介することを主旨とした公演でした。(企画、製作「高麗亜」)

チュムパンの会より趙寿玉の「僧舞」、李貞恵、丁宣希による「剣舞」、「春鶯舞」が舞われました。他のプログラムには「サルプリ舞」等の他、伝統の趣に現代的要素を取り入れた創作作品など多彩で、会場を埋め尽くした、およそ300人の観客は各演目の出演者に惜しみない拍手を送りました。
(曹和仙)

る感じがします。

仕事相手や同僚がほとんどオヤジなので、強く厳しいネエさん達に囲まれ、踊りを教えていただいたり、一緒に食べたり飲んだりするのも、喜びの一つです。

このごろはハナトゥル…でリズムを取るのももちろん、ほ

かの言葉も少し覚ええました。ムツや豚足など酒のつまみも学習中です。

舞踊の道には、一步目を踏み出したばかり。この先がどれだけ長いかわかりませんが、できるだけ遠くまで進みたい、と思っています。

